2025年3月期 第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

《3Q実績》

Q1：3Q実績は、前回発表時の会社予想と比較して上振れているのではないかと思うが、その背景や増減要因について教えてほしい。

A1：主な増減要因として、主要顧客であるトヨタ自動車の生産台数が想定より増加したことが大きく影響しています。海外に大きな台数変動はありませんでしたが、日本国内は前回想定を上回りました。その結果、適度な負荷レベルとなり、トラブルなく生産ができ改善が進んだこと、北米での販売価格改定が想定より抑制できたことが収益上方修正の主要因となります。また、前回発表時は、3Q以降の為替を145円/\$の前提としていましたが、実際には150円前後で推移したことも業績を押し上げた要因の一つです。

《来期見通し》

Q2：プレス・樹脂事業の今後の業績について、25年度も24年度3Qや4Q並で推移するとみているか、それとも、今後減速する見通しか、イメージを教えてください。

A2：トヨタ自動車の国内生産は順調であり、3Q実績は日当たり生産台数13,700台/日レベル、4Qも14,000台/日に近づくと見込んでいます。4月以降も前年以上の生産になると想定しており、この傾向は続くと思います。また、アメリカのトヨタ生産も好調に推移すると見込んでおり、総じてプレス・樹脂事業は好調を維持できると予想しています。但し、トランプ政権への移行に伴う追加関税の影響はまだ不透明であり、注視が必要です。

Q3：来期の事業環境について、生産台数が増加し、東大垣工場の立ち上げコストが減少すれば、利益が増加する可能性があると思うが、台数の環境と稼ぐ力の実力値はどのようなレベルにあるか？

A3：国内の生産台数については25年1Qから順次増加していき、2Q以降は高いレベルの生産になると予想しています。モデルチェンジ予定の車種についても、BEVの販売台数は未知数ですが、その他の新モデルや既存モデルは競争力も高く、トヨタ車は安定して販売が見込めると考えています。東大垣工場の生産能力についても、25年4月以降の生産計画ではほぼ負荷が埋まってくることから、24年下期の利益トレンドが25年も維持できると考えています。

Q4：各社新聞報道では、2025年のトヨタ生産台数は、国内では337万台や330万台等、幅があるが、どの情報が正しいのか教えてください。また、26年から27年にかけて日本国内の生産が370万台、日当たり生産台数として15,000台以上という報道もあるが、現実的に可能だと思うか？

A4：さまざまな報道がある中で、具体的にどの数字が正しいか判断するのは難しいため、幅を持って見るべきだと考えています。当社では25年度は、国内生産台数330~340万台と予想しています。国内で日当たり15,000台を継続的に生産するためには、人手の確保や生産、物流面など各所にボトルネックがあり、難しいと思います。但し、26年や27年まで、時間的猶予があるため、需要があれば各社の改善で実現性が高まると考えています。

《その他》

Q5：株主還元について、業績が上方修正されたが、配当金額は据え置かれており、配当性向が前回の計画より低下している。今後の株主還元をどう考えているか、教えてほしい。

A5：最終的な業績の結果を見たとえで判断が必要と考えています。株主還元についての考え方は大きく変わっていませんが、現在の状況は設備投資額が330億円と過去最高額となっており、25年度以降も24年度まではいかないものの、高水準の投資が続く見込みです。このため短期視点での株主還元だけでなく、中長期の成長を見据えた判断が必要であり、それらを総合的に勘案して判断し、お伝えしたいと考えています。

Q6：従来よりも電気自動車（BEV）販売がスローダウンしていることにより、トヨタ自動車が将来の方針を見直している中で、ギガキャスト採用が限定的に終わるとの話や、電子膨張弁の成長が見込みにくいという話など、御社に影響を与える変化があれば教えてほしい。

A6：大きな変化はないと考えています。当社の電子膨張弁の拡大は、当初予定より1～2年遅れて27年度以降になる見込みです。トヨタでのギガキャスト採用は27年立ち上げ車型がスタートとなると思いますが、それ以降はアナウンスがないため、採用は限定的だと予測しています。なお、ギガキャスト採用の新規車両において、受注活動は順調に進みました。今後、ギガキャストが拡大した場合も、引き続き積極的に営業していきたいと考えています。

以上